

滋賀県レイカディア大学 同窓会 甲賀・湖南支部だより 第32号

滋賀県レイカディア大学
同窓会 甲賀・湖南支部
発行責任者 本田 秀信

目次

支部長挨拶 新年を迎えて	(36期 園芸 本田 秀信)	• P 2
秋のグラウンドゴルフ大会	(38期 園芸 吉治 孝和)	• P 3
地域活動事例発表会	(37期 地文 村上多津美)	• P 4
新入会員歓迎会	(37期 地文 市井 眞一)	• P 5
趣味の作品展	(37期 地文 市井 眞一)	• P 6
ボランティア活動 (子供の森)	(33期 園芸 竹内 重行)	• P 7
レイ大同窓会40周年記念事業	(36期 園芸 本田 秀信)	• P 8
同好会活動 (グラウンドゴルフ同好会)	(33期 園芸 田村 光男)	• P 9
同好会活動 (里山ハイキング同好会10月)	(31期 地文 高山 雅史)	• P 10
同好会活動 (里山ハイキング同好会11月)	(31期 地文 高山 雅史)	• P 11
編集後記	(33期 陶芸 林 弘實)	• P 12



令和4年 正月 土山・田村神社の大絵馬(寅年)

新年を迎えて

36期 園芸 本田 秀信

新年明けましておめでとうございます。

去年は、同窓会活動にご協力いただきありがとうございました。新型コロナの影響を受け、計画行事も延期や中止せざるを得ないこともありました。何とか皆様のご協力、努力で最低限開催できたことを有難く存じています。本支部だよりにて報告いたします。



新型コロナも3年目となり、対応もワクチンや飲み薬が出来てきていますので、完全に終息することはないが、死者数もかなり減少し、インフルエンザ並みの対応になることを願っています。

さて、12月9日の「サポートの会」の講演会で、元佛教大学長の田中典彦先生のお話を聞きました。その内容の一部を紹介いたします。

* 福祉とは、{ふ、く、し} ふつうの 暮らしの しあわせ (ありのままの衣食住)

* {いい加減に生きる}

加減とは、仏教の教えからきたものです。加は「加える」、減は「引く」ということです。つまり自分の足りないところは加えなさい、行き過ぎたところは引きなさい。これが世の中の生き方ですよということです。そうすることによって安心して喜びながら生きていけるのです。自分が身も心も安らかに生きてゆく道、それが「いい加減に生きる」ということ。会員の皆様、いい加減に生きていきましょう。



秋のグラウンドゴルフ大会

体育部 38期 園芸 吉治 孝和

開催日：令和3年11月4日（木） 場所：水口町 野洲川グラウンドゴルフ場
参加者：5班・21名 進行：PM1時15分・記念撮影・本田支部長挨拶
競技： 1ラウンド：1時30分スタート・16ホール終了後お茶休憩
2ラウンド：残り16ホール

本年度も、本来なら6月と10月の年2回を予定していましたグラウンドゴルフ大会ですが、新型コロナウイルスの影響により、やむを得ず6月は中止となり、秋の大会も緊急事態宣言が解除されてた10月から日程に余裕を持ち、11月に漸く開催できる運びとなりました。

当日の参加者は25名の予定でしたが、4名の方が欠席となり、21名・5班でスタートしました。この時期には珍しく遠くの方で雷鳴が響き、真っ黒な空が近づき雨の心配もしましたが、皆様の精進がよろしいのか？雨に降られることもなく楽しく無事に終わることが出来ました。改めて皆様方のご協力のもと体育行事を終えることが出来お礼申し上げます。



野洲川グラウンド場 参加者



優勝：市井さん



準優勝：北坂さん



三位：木村さん

地域活動事例発表会

37期 地文 村上 多津美

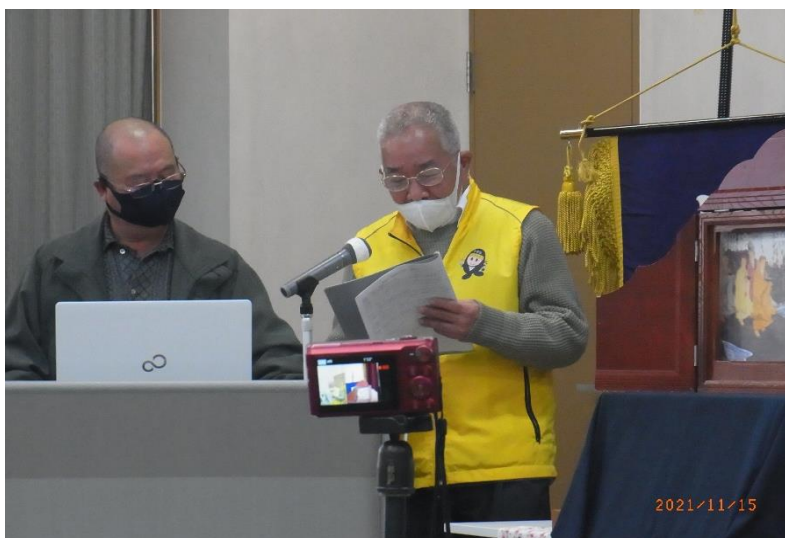
令和3年11月15日(月)近江八幡市総合福祉センター「ひまわり館」において、レイカディア大学同窓会の「地域活動事例発表会」が開催されました。

甲賀・湖南支部から37期地域文化学科の村上多津美が発表しました。

2500世帯・7000人が居住する甲南町・希望ヶ丘で毎月第2日曜日に開催されている、ふれあいサロンカフェ「ふらっと」での紙芝居上演を紹介致しました。

・「善光寺如来縁起」は長野善光寺の御本尊一光三尊の「善光寺如来」にまつわる縁起説話です。紙芝居に使用した「押絵」は甲南町深川市場の「海蔵寺」で祀られており、明治の人形作家「福澤環雄」の作品です。

このように、地域の伝承や昔話を紙芝居にして上演。「ふらっと」に来られる方々に楽しんで頂いています。



新入会員歓迎会

37期 地文 市井 眞一

新型コロナウイルス感染症対策として手の消毒、マスクの着用、検温、席間隔のゆとり等に注意し、従来と異なり、飲食を取りやめ、午後1時から2時間程度実施しました。

- ・日 時 令和3年11月18日(木) 13時～15時
- ・場 所 水口中央公民館 鹿深ホール
- ・参加者 32名(新入会員10名中4名出席, 既会員28名出席)

* 自己紹介

新入会員の方については、レイカディア大学に入学された動機、趣味、現在の状況について話していただきました。既会員の方については卒業年次、専攻学科、現在の状況等について30秒程度話していただきました。

* 支部活動

本田支部長より同窓会本部・支部活動、各事業部活動、同好会活動について説明がありました。



* アトラクション

ミュージックセラピーオンタイム9名の方に1時間以上にわたり1960年代～70年代の歌を中心に10数曲演奏いただき、少し若かりし頃を思い出しながらマスクごしに歌いました。楽しいひと時を過ごすことができました。



趣味の作品展

37期 地文 市井 眞一

開催日の前日には、部員が協力して重いピアノを移動したり会場設営に汗を流しました。18名の会員の皆様から詩、短歌、手芸、竹灯籠、盆栽、書画、紙芝居など45点の力作が出展され、趣味の多さに圧倒され、楽しく見させていただきました。

- ・日時 令和3年11月18日(木) 10時～16時
- ・場所 水口中央公民館 視聴覚室
- ・入場者 一般の方を含めて40数名の方に鑑賞していただきました。

出展していただきました全員の皆様に厚く御礼申し上げます。



ボランティア活動部 33期 園芸 竹内 重行

ボランティア活動 「水口・子どもの森」の活動

令和3年12月10日(金) 冬にしては小春日和のもと、みなくち子どもの森において理事15名が参加しボランティア活動を実施しました。

子どもの森では各小学校から1年間に生徒2000名を受け入れ、授業の一環として木材を使って工作します。その工作材料の下準備を今回ボランティア活動としてお手伝いしました。

コロナウイルス感染防止のため人数制限し、体験農場前の広場(屋外)で簡易のストーブを囲みながら600個の面取りを仕上げました。

終了後、隣のサントピアホテルで慰労会兼昼食会をしました。



レイ大同窓会40周年記念事業

36期 園芸 本田 秀信

1980年9月22日同窓会が設立され、本年創設40周年記念行事を9月22日開催する予定で進めていましたが、コロナ禍のため12月1日にグラウンドゴルフ大会、17日に式典を延期することとなりました。当支部のグラウンドゴルフ大会参加結果を主体に報告いたします。

グラウンドゴルフ会場は、雨天、季節を考え長浜ドームで開催されました。

メンバーの殆どがドームでの経験がなく不安なスタートとなりましたが、支部対抗団体戦（9チーム）では準優勝と立派な成績を収めることが出来ました。メンバーのレベルの高さを示すことが出来ました。（支部参加者12名）

17日の記念式典で、団体戦、個人戦の表彰を受けました。

- ・団体戦 : (準優勝) メンバー: 畑中良一さん、木村榮子さん、鈴木勲さん、市井眞一さん、吉治孝和さん ・ ・ 平均年齢77歳
- ・個人戦 : (3位) 鈴木勲さん、(当日賞: 17位) 原田順子さん
(飛び賞) 木村榮子さん



グラウンドゴルフ同好会

33期 園芸 田村 光男

令和3年度 同好会活動報告

昨年度はデルタ株のコロナ禍のため、感染防止対策として県や市の施設が一時的に閉鎖となりました。その為、計画しておりました2大会をやむなく中止としました。

令和3年度は新入会員を迎え会員一同、心機一転での活動開始しました。**
同好会年間行事として、令和2年度と同様年6回の大会開催を計画しました。

会員数は30名、内容は男性22名、女性8名です。

会員の中には、レイカディア同窓会本部から米寿祝を受賞された方が5名おられ、元気ハツラツの高齢者としてプレーを楽しんで頂いております。

さて、今年度もコロナ禍のため、昨年と同様に施設が一時的に利用不可となり、予定を順延する中で進めてまいりました。令和3年度は年間6大会と成績発表大会の予定でした。会員皆様のご協力により、あと1大会と成績発表大会を残すのみとなりました。今後、状況を見極めながら、残りの大会を開催する予定です。

新型コロナウイルスの終息を願っております。



里山ハイキング同好会

31期 地文 高山 雅史

* 10月21日 佐和山ハイキング

コロナ禍で外出制限が続いたので軽いハイキングにしました。佐和山城址巡りです。JR彦根駅より歩いてまず麓の龍澤寺を見学しました。この寺は井伊直政以前の菩提寺であり、以後の藩主は隣の清涼寺となりました。

佐和山城址は清涼寺の敷地です。この彦根以の外井伊家の歴代藩主の何人かは各地に菩提寺を持っています。

龍澤寺垣沿いの佐和山城主石田三成の像を見て龍澤寺本堂に入ります。方丈には2つの庭があり補陀落山をかたどった枯山水の「ふだらくの庭」（開山昇天和尚作）は数多くの苔に覆われた渋い茶色の石組みと築山全体が鶴亀で表現され、

「鶴亀蓬莱庭園」（小堀遠州作）は佐和山の峰を借景に池を配した見応えのある庭園です。さらに芭蕉門弟で有名な森川許六の56枚の襖絵を見て、多芸の才人と言われたことがよくわかりました。

この寺内には禅宗の大学寮があってその中の園図科は日本造園専門学の発祥とされています。また「だるま寺」とも呼ばれ毎年4月には大小三千個の「だるま祭り」が行われています。

寺の横にある登山口から登ります。墓地を抜けると、息の切れる急登が始まり切通の分岐に着きます。道は鳥居本に通じています。さらに煙硝（塩）櫓といわれる塩保存蔵を見て西の丸跡を通り、本丸跡の頂上に着きました。

城主石田三成が関が原で敗れた後、井伊直政が彦根城を作った際に石垣を徹底して破壊して15m近く佐和山山頂を削ったと言われています。

頂上からの展望は荒神山、多景島、彦根城が一望のもとに見えます。

天守閣跡の隅石垣と井戸跡の千貫井を見た後、本丸跡で彦根城の遠望を楽しみ昼食をとりました。

帰りは同じ道を下り龍澤寺の隣の清涼寺を見てJR彦根駅に戻りました。



* 11月24日 安土城址ハイキング

安土城址前のボランティアガイドさんの案内で、入口大手道の石段を登りました。

この場所は元々信長の菩提寺として摠見寺が建てられましたが、江戸時代末期で焼失し仮本堂が建てられました。この時大手道の一部を埋め立てて石垣を築いたので大手道は石垣を迂回していました。その後この石垣の解体をすすめたところ幅9m、長さ180mの大手道が現れました。410段の石段は下から見上げるとなかなかの迫力があり、また段差もかなりあって途中一服して登るほどでした。両側には武家屋敷が並んでいましたが、家来衆は通れず特別な賓客を迎えるための道でした。城への往復は西方の摠見寺の石段を使っていたようです。石段の両側には武家屋敷跡が残っています。

屋敷の住人は秀吉、家康、利家などが挙げられていますが、確実なのは信長の祐筆(秘書)であった武井夕庵の屋敷で、信長の相談相手としても影響力が大であったといわれている人です。

そのまま石垣に沿って2回曲がり黒金門跡を通り、本丸跡から石垣に囲まれた天守跡に着きました。ここに5層7階の天守があり100個近い礎石が残っていました。この天守の石垣には火災時に崩れ落ちた木材の熱で細かくひび割れた跡がありました。



天守跡の石垣からは西の湖、大中の干拓地の向こうに琵琶湖を見下ろすことが出来ました。大南湖の干拓が昭和22年に始まるまではこの安土の山の下まで水が来ており、古老の話ではよく泳いだとのことで、当時の安土城の周りが湖水に囲まれた様子がよくわかりました。また西方に船着き場があったことも納得できました。

ここから戻り山道を摠見寺の三重塔へ行きました。瓦など修理中だそうですが室町時代の作で石部の長寿時から信長が移築し、元の寺には礎石のみが残っています。近で見ると木組みの細工が見事でした。2時間30分ほどのガイドでしたが、本能寺の変でわずか3年しか持たなかった城の盛衰が戦国時代を象徴しているようでした。

この後、安土考古博物館へ移動しました。

横の芝生で暖かい日差しの下、昼食をとり、安土考古博物館を見学しました。展示には安土城と信長の資料が多くあり、城跡歩きと見学で城の内容がよくわかり楽しいハイキングでした。



編集後記

昨年末には落ち着いてきたかに見えた新型コロナウイルスが、新年に入りオミクロン株が急激に感染を拡大して日本中が巻き込まれてきました。

私たちの滋賀県はマン延防止宣言は出ていませんが、皆が集まったの作業や集会がやり難くなっています。一日でも早く終息を願うばかりです。

今回の広報は、コロナ禍で中止や延期になった行事も多くて各部や同好会でがんばって実施した行事のみ報告しました。

今年度は、レイカディア大学同窓会40周年の年でしたが、三蜜を避けるというコロナ感染防止対策のため、記念行事につきも人数制限で多くの会員で祝うことにも気を使っていました。

甲賀・湖南支部の活動でも同様に参加者を絞っての行事があり残念な一年でした。

新年度はコロナも収まって活動的な一年にしたいですね。

(文化広報部 33期 陶芸 林 弘實)

